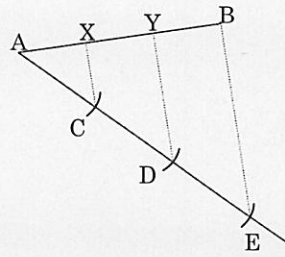


1 12点

(解答例)

- ①点 A から適当な長さの半直線を引き、コンパスで A から等間隔に 3 つの点を取り、それぞれ点 C, D, E とする。
- ②点 B と E を結ぶ。
- ③三角定規を使って点 C, D から線分 BE と平行な線を引き、線分 AB と交わる点をそれぞれ X, Y とする。  
この X, Y により、線分 AB は三等分される。



1  
12点

2 (1) 10点 (2) 10点

(1)	128	(2)	$y = 10x$
-----	-----	-----	-----------

2  
20点

3 (1) 10点 (2) 12点 (3) 12点

(1)	80 (個)	(2)	$\frac{1}{2}n(n+1)(n^2-n+1)$
(3)	$\frac{1}{3}n(n^2+2)$ (個)		

3  
34点

4 (1) 12点 (2) 10点 (3) 12点

(解答例)

(証明)

△OSC と △OTD において、  
正方形の対角線は、それぞれの中点  
で垂直に交わるから

$$OC = OD \dots \textcircled{1}$$

また、 $\angle OCS = \angle ODT = 45^\circ \dots \textcircled{2}$

次に、 $\angle SOC + \angle COT = 90^\circ$ ,

$$\angle TOD + \angle COT = 90^\circ$$

だから  $\angle SOC = \angle TOD \dots \textcircled{3}$

よって、①, ②, ③より、  
1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので

$$\triangle OSC \equiv \triangle OTD \quad \text{証明終}$$

(1) より四角形 OSCT の面積は、△OCD の面積に等しい。  
よって、求める面積は、

$$\frac{1}{2} \times 12 \times 6 = 36 \text{ (cm}^2\text{)} \dots \text{答}$$

図2において、辺 BC の点 B 側を延長した線の上に、  
 $\angle PAE = 45^\circ$  となる点 E をとると、 $\triangle AQD \equiv \triangle AEB$   
である。このことより、 $\triangle APQ \equiv \triangle APE$  がいえる。

よって、△APE の面積は  $275 \text{ cm}^2$  である。

また、△APE において  $PE = PQ = 22 \text{ cm}$  だから

$$\frac{1}{2} \times 22 \times AB = 275 \quad \text{よって、} AB = 25$$

ゆえに、もとの正方形 ABCD の面積は

$$25 \times 25 = 625 \text{ (cm}^2\text{)} \dots \text{答}$$

4  
34点

受験 番号		得点 その1	100点
----------	--	-----------	------

5 各10点×4

(1)

データを小さい順に並べると

40, 42, 52, 59, 65, 68, 69, 69, 76

第1四分位数は  $\frac{42+52}{2} = 47$ , 第3四分位数は  $\frac{69+69}{2} = 69$

よって, 四分位偏差は,  $\frac{69-47}{2} = 11 \dots$  [答]

また, 平均値は,

$$\frac{40+42+52+59+65+68+69+69+76}{9} = 60$$

よって, 求める標準偏差を  $s$  とすると,

$$\begin{aligned} s^2 &= \frac{1}{9} \{ (40-60)^2 + (42-60)^2 + (52-60)^2 + (59-60)^2 \\ &\quad + (65-60)^2 + (68-60)^2 + (69-60)^2 + (69-60)^2 \\ &\quad + (76-60)^2 \} \\ &= 144 \end{aligned}$$

ゆえに,  $s > 0$  だから,  $s = 12 \dots$  [答]

(2)

120! を計算したときの末尾に並ぶ0の個数は, 120! を素因数分解したときの素因数5の個数に一致する。

1から120までの自然数のうち,

5の倍数の個数は120を5で割ったときの商で24

5<sup>2</sup>の倍数の個数は120を25で割ったときの商で4

120 < 5<sup>3</sup> であるから 5<sup>n</sup> ( $n \geq 3$ ) の倍数はない。

よって, 素因数5の個数は, 24+4=28

したがって, 0は28個連続して現れる。… [答]

(3)

与式 =  $5\sin(\theta + \alpha) + 2$  とおける。ただし,  $\alpha$  は  $\sin \alpha = \frac{4}{5}$ ,

$\cos \alpha = \frac{3}{5}$ ,  $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  を満たす角とする。

また,  $0 \leq \theta \leq \pi$  より  $\alpha \leq \theta + \alpha \leq \pi + \alpha$  だから

$$-\sin \alpha \leq \sin(\theta + \alpha) \leq 1$$

$$-\frac{4}{5} \leq \sin(\theta + \alpha) \leq 1$$

よって,  $-4 \leq 5\sin(\theta + \alpha) \leq 5$

ゆえに,  $-2 \leq 5\sin(\theta + \alpha) + 2 \leq 7$

したがって, 求める最大値は7, 最小値は-2… [答]

(4)

まず1回の試行で白玉の出る確率を求める。

(i) 白玉1個, 赤玉2個のとき

$$\frac{{}_3C_1 \times {}_2C_2}{{}_5C_3} = \frac{3}{5C_2} = \frac{3}{10}$$

(ii) 白玉2個, 赤玉1個のとき

$$\frac{{}_3C_2 \times {}_2C_1}{{}_5C_3} = \frac{3 \times 2}{5C_2} = \frac{6}{10} = \frac{3}{5}$$

(iii) 白玉3個のとき

$$\frac{{}_3C_3}{{}_5C_3} = \frac{1}{5C_2} = \frac{1}{10}$$

よって, 1回の試行で白玉が奇数個取り出される確率は

$$\frac{3}{10} + \frac{1}{10} = \frac{2}{5}$$

であり, 偶数個取り出される確率は  $\frac{3}{5}$  である。

したがって, 求める確率は, 1回目に白玉が奇数個で2回目に白玉が偶数個取り出されるときか, 1回目に白玉が偶数個で2回目に白玉が奇数個取り出されるときであるから

$$\frac{2}{5} \times \frac{3}{5} + \frac{3}{5} \times \frac{2}{5} = \frac{12}{25} \dots$$
 [答]

5

40点

受験番号		得点 その2	40点
------	--	-----------	-----

- 6 (1) 7点 (2) 7点 (3) 8点 (4) 10点  
(1)

正四面体だから  $|\overline{AB}| = |\overline{AC}|$  である。よって、 $\overline{AB} \cdot \overline{AC} = \frac{9}{2}$  より

$$\overline{AB} \cdot \overline{AC} = |\overline{AB}| |\overline{AC}| \cos 60^\circ = \frac{1}{2} \times |\overline{AB}|^2 \text{ だから } |\overline{AB}|^2 = 9$$

よって、 $|\overline{AB}| > 0$  だから  $|\overline{AB}| = 3 \dots$  答

したがって、正四面体 ABCD は一辺の長さが3で、 $\overline{AB}$  と  $\overline{BC}$  のなす角は  $120^\circ$  だから

$$\overline{AB} \cdot \overline{BC} = 3 \times 3 \times \left(-\frac{1}{2}\right) = -\frac{9}{2} \dots$$
 答

- (2)

正四面体 ABCD だから

$$\overline{AB} \cdot \overline{AC} = \overline{AC} \cdot \overline{AD} = \overline{AD} \cdot \overline{AB} = \frac{9}{2}$$

点 P は辺 AB を  $x : (1-x)$  の比に内分する点だから

$$\overline{PC} \cdot \overline{PD} = (\overline{AC} - \overline{AP})(\overline{AD} - \overline{AP}) = (\overline{AC} - x\overline{AB})(\overline{AD} - x\overline{AB})$$

$$= \overline{AC} \cdot \overline{AD} - x\overline{AC} \cdot \overline{AB} - x\overline{AB} \cdot \overline{AD} + x^2 |\overline{AB}|^2$$

$$= \frac{9}{2} - \frac{9}{2}x - \frac{9}{2}x + 9x^2 = 9x^2 - 9x + \frac{9}{2} \dots$$
 答

次に、 $\overline{PC} = \overline{AC} - \overline{AP} = \overline{AC} - x\overline{AB}$  だから

$$|\overline{PC}|^2 = |\overline{AC}|^2 - 2x\overline{AC} \cdot \overline{AB} + x^2 |\overline{AB}|^2 = 9 - 9x + 9x^2$$

$$= 9x^2 - 9x + 9 \dots$$
 答

- (3)

$$\cos \theta = \frac{\overline{PC} \cdot \overline{PD}}{|\overline{PC}| |\overline{PD}|} = \frac{\overline{PC} \cdot \overline{PD}}{|\overline{PC}|^2} \text{ だから (2) より}$$

$$\cos \theta = \frac{9x^2 - 9x + \frac{9}{2}}{9x^2 - 9x + 9} = \frac{18x^2 - 18x + 9}{18x^2 - 18x + 18} = \frac{2x^2 - 2x + 1}{2x^2 - 2x + 2}$$

$$= \frac{2x^2 - 2x + 2 - 1}{2x^2 - 2x + 2} = 1 - \frac{1}{2x^2 - 2x + 2} = 1 - \frac{1}{2\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{2}}$$

ここで、 $2\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{2}$  は、 $0 < x < 1$  において、 $x = \frac{1}{2}$  のとき

最小となるから  $\frac{1}{2\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{2}}$  は最大となり、 $\cos \theta$  も最小となる。

したがって、 $x = \frac{1}{2}$  のとき  $\cos \theta$  は最小値  $\frac{1}{3}$  をとる。...

 答

- (4)

(3) より点 P は辺 AB の中点である。

また、正四面体 ABCD だから、点 R は  $\triangle BCD$  の重心である。

$$\text{よって、} \overline{AR} = \frac{1}{3}\overline{AB} + \frac{1}{3}\overline{AC} + \frac{1}{3}\overline{AD}$$

次に、3点 A, Q, R は同一直線上にあるから、 $\overline{AQ} = k\overline{AR}$  となる実数 k が存在する。

したがって

$$\overline{AQ} = \frac{1}{3}k\overline{AB} + \frac{1}{3}k\overline{AC} + k\frac{1}{3}\overline{AD}$$

$$= \frac{1}{3}k \times 2 \times \frac{1}{2}\overline{AB} + \frac{1}{3}k\overline{AC} + \frac{1}{3}k\overline{AD}$$

$$= \frac{2}{3}k\overline{AP} + \frac{1}{3}k\overline{AC} + \frac{1}{3}k\overline{AD}$$

また、点 Q は平面 PCD 上の点だから  $\frac{2}{3}k + \frac{1}{3}k + \frac{1}{3}k = 1$

よって、 $k = \frac{3}{4}$  だから  $\overline{AQ} = \frac{3}{4}\overline{AR}$

ゆえに、 $AQ : QR = 3 : 1 \dots$  答

6

32点

受験番号		得点 その3	32点
------	--	-----------	-----

7 (1) 10点 (2) 6点 (3) 12点  
(1)

定義域は  $x > 0$ ,  $x$  切片は  $(1, 0)$

$\lim_{x \rightarrow +\infty} \frac{\log x}{x} = 0$ ,  $\lim_{x \rightarrow +0} \frac{\log x}{x} = -\infty$  より,  $x$  軸,  $y$  軸は漸近線である。

また,  $y' = \frac{1}{x} \cdot x - \log x = \frac{1 - \log x}{x^2}$

$$y'' = \frac{-\frac{1}{x} \cdot x^2 - (1 - \log x) \cdot 2x}{x^4} = \frac{2 \log x - 3}{x^3}$$

よって,  $y' = 0$  となる  $x$  は  $x = e$ ,  $y'' = 0$  となる  $x$  は  $x = e\sqrt{e}$

増減表をかくと

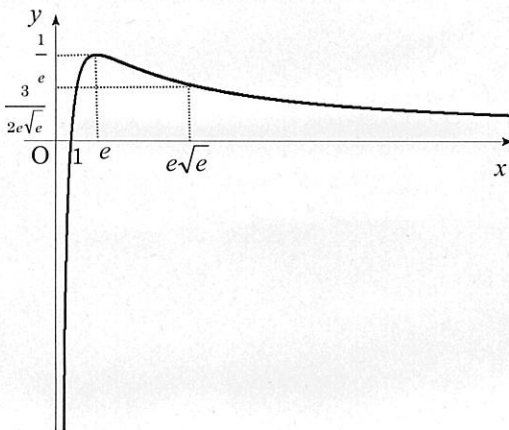
$x$	0	...	$e$	...	$e\sqrt{e}$	...
$y'$		+	0	-	-	-
$y''$		-	-	-	0	+
$y$		↷	$\frac{1}{e}$	↶	$\frac{3}{2e\sqrt{e}}$	↷

よって,

$x = e$  のとき, 極大値  $\frac{1}{e}$  をとる。

変曲点は,  $(e\sqrt{e}, \frac{3}{2e\sqrt{e}})$

したがって,  $y = f(x)$  のグラフは下のとおりである。



(2)

$x > 0$  より  $ax = \log x$  から  $a = \frac{\log x}{x}$

$ax = \log x$  が実数解をただ1つもつことより,  $y = a$  のグラフと  $y = \frac{\log x}{x}$  のグラフが,  $a > 0$  において共有点をただ1つもつきを考えればよい。

よって, (1) より  $a = \frac{1}{e} \dots$  [答]

(3)

(1), (2) より  $k = e$  だから, 求める体積  $V$  は

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_1^e \left( \frac{\log x}{x} \right)^2 dx \\ &= \pi \int_1^e (-x^{-1}) (\log x)^2 dx \\ &= \pi \left[ -x^{-1} (\log x)^2 \right]_1^e - \pi \int_1^e (-x^{-1}) (2 \log x) \frac{1}{x} dx \\ &= -\frac{\pi}{e} + 2\pi \int_1^e x^{-2} \log x dx \\ &= -\frac{\pi}{e} + 2\pi \int_1^e (-x^{-1}) \log x dx \\ &= -\frac{\pi}{e} + 2\pi \left[ -x^{-1} \log x \right]_1^e - 2\pi \int_1^e (-x^{-1}) \frac{1}{x} dx \\ &= -\frac{\pi}{e} - \frac{2\pi}{e} + 2\pi \int_1^e x^{-2} dx \\ &= -\frac{3\pi}{e} + 2\pi \left[ -x^{-1} \right]_1^e \\ &= -\frac{3\pi}{e} - \frac{2\pi}{e} + 2\pi \\ &= \left( 2 - \frac{5}{e} \right) \pi \dots$$
 [答]

7  
28点

受験番号	得点 その4	28点	得点 合計	200点
------	-----------	-----	----------	------